

補助金の全体に関する課題等について

公益性、必要性、効果性の観点などから補助金のあり方について検討する。

課題（事務局）

- ・長期継続している補助金などで、社会情勢の変化等によって、当初の必要性が薄れているものがある。
- ・補助事業を実施したことによる効果を測ることが難しいものがある。
- ・少額の補助金は、多額の補助金と比べたとき、補助金の交付手続は同様となるので、交付する側も、される側も非効率である。
- ・補助事業や補助要件の周知の不足によって、結果として、特定の個人や組織にのみ補助金を交付しているものがないか。
- ・補助金を受ける側が、必ずしも、補助金の目的やねらいを十分に理解しているとは言えない。

【部会意見】

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・公募型、競争型に変えていくことで、効果を高める。
- ・参考となるものでバウチャー制度、ネイバーフットマッチングファンド、ソーシャルインパクトボンドなどの制度がある。
- ・これまでは、適正に使われているかを評価していたが、これからは、成果の見える化、成果の部分を見ていく方向性になっていく。
- ・ここ数十年の間に社会情勢も変化してきており、クラウドファンディングの活用もできるようになってきている。
- ・補助金を出すことによって、利益が出たとき、その一部を返してもらうような方法もある。収益納付型補助金。
- ・市民と行政がつながっているという意識を持つことは意味があり、補助金はその役割を果たしていることがある。
- ・市民活動などは、補助金中心の支援ではなく、表彰制度などを活用し、行政が市民の活動を讃え、市民もそれを誇りに地域活動に取り組むといった考えも必要である。
- ・補助金のあり方に検討することは、突き詰めていくと、その事業がどうあるべきか、あるいは、行政課題等に対して、どのように事業を講じていくべきかを検討して行くことになる。